

1881-1885年のアメリカ茶葉市場における 日中緑茶競争

— 日本領事報告を中心に —

趙 思 倩

The Competition between Chinese Green Tea and Japanese Green Tea
in American Market from 1881 to 1885

— Based on the Report of Japanese Consul to the U.S. —

ZHAO Siqian

Abstract

Before Japanese green tea gained access to the American market, Chinese green tea essentially held a monopoly over the entire U.S market. Without any doubt China at that time was the major exporter of green tea to the U.S., with a market share of more than 90%. However, since the introduction of Japanese green tea into America in 1868, the predominant position of Chinese green tea became weakened. As Japanese tea began to share the market with Chinese tea, the competition between these two countries became more and more fierce, reaching its peak in the 1880s. New York and San Francisco were the largest trading ports in the U. S. and a large amount of imported tea was traded and transferred there. This paper, through examining a report of the Japanese Consul to the U.S., will examine the competition between Chinese green tea and Japanese green tea at these two ports

Keywords: アメリカ茶葉市場、中国緑茶、日本茶葉、日中茶葉競争、不正緑茶

はじめに

中国茶葉は、清代において広東貿易によって盛んに欧州に輸出されていたことは、すでにイギリス東インド会社の貿易史研究からも明らかにされている。とくに、1711年、中国の広東に商館を設立して以降、イギリス東インド会社が中国茶葉の海外貿易を独占した。1776年7月4日、アメリカ政府は『独立宣言』を発表し、「アメリカ合衆国」として正式に独立した。1783年、イギリスからのアメリカ独立の承認によりアメリカ独立戦争が終結した。この後、清朝とアメリカの茶葉貿易も展開した。

1784年3月5日に、アメリカのニューヨークで発刊された“*Maryland Journal and Baltimore Advertiser*”には以下のような記事がある。

“On Sunday last sailed from New York, the ship *Empress of China*, Captain John Green of this port for Canton in China. ... This handsome commodious and elegant ship modelled after and built on the new invented construction of the ingenious Mr. Peck of Boston, is deemed an exceeding swift sailer. The Captain and crew, with several young American adventurers, were all happy and cheerful, in good health and high spirits; and with a becoming decency, elated on being considered the first instruments, in the hands of Providence, who have undertaken to extend the commerce of the United States of America to that distant and to us unexplored, country.”¹⁾

“the arrival of the ship *Empress of China*, captain Greene, from the East Indies, ... after a voyage of 14 months and 24 days. ... As the ship returned with a full cargo, and such articles as we generally import from Europe, a correspondent observes, that it presages a future happy period of our being able to dispense with that burdensome and unnecessary traffick, which heretofore we have carried on with Europe — to the great prejudice of our rising empire, and future happy prospects of solid greatness.”²⁾

“*Empress of China*”号は中国へ来航したアメリカ合衆国の最初の商船として、1784年3月5日にニューヨーク港から来航し、中国広州で中国商品を購入して1785年5月11日にニューヨ

1) A New York item in the *Maryland Journal and Baltimore Advertiser*, Mar. 5, 1784. John W. Swift, P. Hodgkinson and Samuel W. Woodhouse, *The Voyage of the Empress of China*, “*The Pennsylvania Magazine of History and Biography*”, Vol. 63, No. 1 (Jan., 1939), p. 24

2) A New York item in the *Pennsylvania Packet*, May. 16, 1785. John W. Swift, P. Hodgkinson and Samuel W. Woodhouse, *The Voyage of the Empress of China*, “*The Pennsylvania Magazine of History and Biography*”, Vol. 63, No. 1 (Jan., 1939), p. 30

ークに帰港した。その商品については、“*The Old China Trade*”に見える。

According to a report of the Select Committee of the East India Company to the Court of Directors of that company, the Empress of China left Canton loaded with 2460 piculs of black tea, 562 piculs of green tea, 24 piculs of nankeens, 962 piculs of chinaware, 490 pieces of silk, and 21 piculs of cassia.³⁾

これについては、松浦章の「1818-1819年におけるアメリカ商船の広州貿易」に整理されており、「エンプレス・オブ・チャイナ号が、広州で購入した商品は、紅茶が2,460担で49,240両、緑茶が562担で16,860両、南京木綿布24担が864反で362両、磁器が962担で2,500両、絹織物490反で2,500両、肉桂が21担で305両となり、合計71,767両⁴⁾」であった。この記録から緑茶は数量的にはわずか562担であったが、購入した商品の総価額ほぼ2割を占めていたことがわかる。

“Empress of China”号は、16,860両の緑茶を購入したが、イギリスは当時の中国輸出緑茶のほとんどを独占していたため、アメリカ茶葉市場において輸入された緑茶はイギリス東インド会社からの再輸出であったと言える。

1844年に清朝とアメリカ合衆国の間で「望厦条約」が結ばれて以降、アメリカの貿易がさらに拡大し、しかも1833年に、イギリス東インド会社が中国貿易の独占権を喪失すると、アメリカが購入した中国緑茶の総量は年々少しずつ増加した。1875年、アメリカへ輸出した中国緑茶の輸出高が、イギリスへのそれを超過し、アメリカ合衆国が中国の主な緑茶輸出地となった。

ところで日本は、1854年3月31日（嘉永7年3月3日）にアメリカとの開港条約「日本國美利堅合衆国和親條約」（“*Convention of Peace and Amity between the United States of America and the Empire of Japan*”）を締結して以降、つづく1858年7月29日（安政5年6月19日）に「日米修好通商條約」（“*Treaty of Amity and Commerce (United States-Japan)*”）を結びアメリカと正式な通商関係を打ち立てた。そのため19世紀60年代から日本茶がアメリカ市場に進出し始めた。このことでアメリカ茶葉市場における日中茶葉貿易の競争が見られることになる。1870年代末、アメリカ市場に輸入された日本茶のシェアが拡大し、中国緑茶を次第に追いつけた。80年代になると、輸入された緑茶の割合は中国と日本とが均衡し⁵⁾、日中緑茶の激しいシェ

3) Foster Rhea Dulles, *The Old China Trade* (Boston, 1930), 11, John W. Swift, P. Hodgkinson and Samuel W. Woodhouse, *The Voyage of the Empress of China*, “*The Pennsylvania Magazine of History and Biography*”, Vol. 63, No. 1 (Jan., 1939), pp. 29-30

4) H.B.Morse: *The Chronicles of the East India Company Trading to China. 1635-1834*, Vol.II p.95, 松浦章、「1818-1819年におけるアメリカ商船の広州貿易」、『東アジア文化交渉学研究』第6号（関西大学）、430頁。

5) 趙思倩「19世紀後期における浙江平水茶葉の海外輸出」、『東アジア文化交渉学研究』第8号、（関西大学東アジア文化研究科、2015年）、341-357頁。

ア争いとなった。1880年代時期においてアメリカ茶葉市場における中国緑茶と日本緑茶とが激しい競争を展開することになる。

そこで、本論文はアメリカにおける日本領事の報告を中心に、アメリカの新聞記事を参考に、1881-1885年におけるアメリカ茶葉市場の日中緑茶の競争の状況を考察するものである。

一、19世紀後半におけるアメリカへ輸出された日中茶葉

日本茶がアメリカ市場に進出する前のアメリカ合衆国にとって中国は主な茶葉輸入国であった。アメリカ海関史料の一部から茶葉輸入の貿易データを記録した1790年から、ついで日本茶葉が正式にアメリカ市場に進出し始めた年度である1868年までは、中国茶葉のみでアメリカが輸入した茶葉総額の9割を占めていた。しかも、18世紀末19世紀初、アメリカの年間茶葉消費量は100万ポンドに達し、人口の増加に伴ってアメリカの茶葉消費総量と一人当たりの消費数も増えた。1830年代になると、一人当たりの茶葉消費量が大幅に上昇し、ことに1833年にイギリス東インド会社が中国貿易の独占権を喪失すると、アメリカが購入した中国緑茶の総量は年々増加した。60年代から、一人当たりの年間茶葉消費量は1ポンドを超えるとともに、アメリカの茶葉市場も一層増大した。1868年に日本茶葉がアメリカへ正式に進出するに従ってアメリカの茶葉市場における日中茶葉のシェア争いも始まったのである。中国舊海関の記録された茶葉貿易のデータによれば、70年代になると、アメリカへ輸出された中国緑茶の輸出高が、イギリスへのそれを超過し、アメリカ合衆国が中国の主な緑茶輸出地となったのである。

しかしながら、日本茶葉の出現のために、従来の中国茶葉が独占していたアメリカ市場は顕著に変化し、アメリカ茶葉市場における中国茶葉の主導的な地位が動揺した。そこで、“*The World's Production and Consumption of Coffee, Tea and Cacao*” と “*Commerce and Navigation of the United States*” のデータにより、アメリカ茶葉市場における日中茶葉の競争状況を見てみたい。日本茶葉が出現した1868年から1890年にかけてアメリカへ輸出した日中茶葉の輸出データを整理すると、次の表1のようになる。

表1からアメリカへ輸出された日中両国の茶葉総額は、アメリカが1年間に輸入した茶葉総額の90%以上を占めていたことが分かる。とくに1881年、日中茶葉の輸入額の割合は99%となり、19世紀後期の最高峰に達し、アメリカ茶葉市場における茶葉の競争は日本茶葉と中国茶葉の対立であると言える。

表1に示したように、1868年から1890年までの数年間にわたりアメリカの輸入茶葉総額は増加の一途を辿り、ことに1887年の輸入額は89,831,221ポンドとなり、総額が最大の年であった。1890年の輸入総額は83,886,829ポンドで、1868年の37,843,612ポンドに比べ121%増え、2倍以上に相当する。1868年から1890年にかけて日本茶葉の割合は時間の推移とともに上昇し、グラフ1に見られるように、1868年の輸入額は僅か7,698,785ポンドであったものが、1887年になる

表 1. 1868-1890年輸米日中茶葉比較表⁶⁾

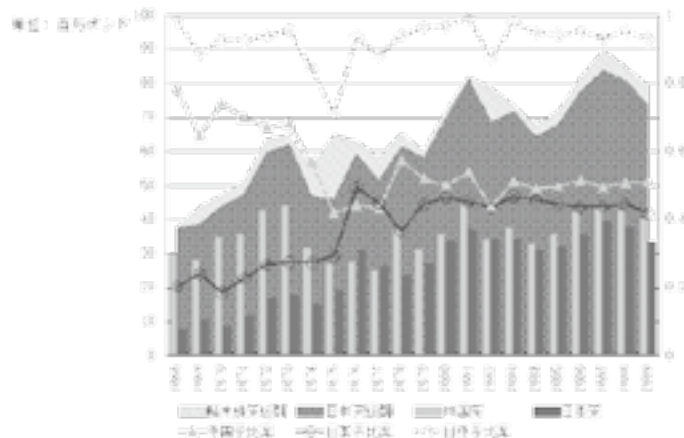
(単位：ポンド)

| 茶葉 年度 | 中国茶 | | 日本茶 | | 日中茶総額 | | 輸米茶葉総額 |
|----------|------------|-----|------------|-----|------------|-----|------------|
| | 輸入額 | 比率 | 輸入額 | 比率 | 輸入額 | 比率 | |
| 1868 | 29,567,790 | 78% | 7,698,785 | 20% | 37,266,575 | 98% | 37,843,612 |
| 1869 | 28,315,817 | 65% | 10,515,778 | 24% | 38,831,595 | 89% | 43,754,354 |
| 1870 | 35,202,887 | 74% | 8,825,817 | 19% | 44,028,704 | 93% | 47,408,481 |
| 1871 | 35,918,111 | 70% | 11,714,523 | 23% | 47,632,634 | 93% | 51,364,919 |
| 1872 | 42,875,679 | 67% | 17,044,551 | 27% | 59,920,230 | 94% | 63,811,003 |
| 1873 | 44,149,167 | 68% | 17,829,656 | 28% | 61,978,823 | 96% | 64,815,136 |
| 1874 | 31,738,958 | 57% | 15,286,396 | 27% | 47,025,354 | 84% | 55,811,605 |
| 1875 | 27,223,108 | 42% | 19,100,596 | 29% | 46,323,704 | 71% | 64,856,899 |
| 1876 | 27,798,994 | 44% | 31,167,197 | 50% | 58,966,191 | 94% | 62,887,153 |
| 1877 | 25,214,946 | 43% | 26,160,135 | 45% | 51,375,081 | 88% | 58,347,112 |
| 1878 | 37,519,711 | 57% | 23,938,734 | 37% | 61,458,445 | 94% | 65,366,704 |
| 1879 | 31,293,392 | 52% | 26,798,439 | 45% | 58,091,831 | 97% | 60,194,673 |
| 1880 | 36,187,314 | 50% | 33,688,577 | 47% | 69,875,891 | 97% | 72,162,936 |
| 1881 | 44,140,817 | 54% | 37,014,339 | 45% | 81,155,156 | 99% | 81,843,988 |
| 1882 | 34,528,566 | 44% | 34,247,659 | 43% | 68,776,225 | 87% | 78,769,060 |
| 1883 | 37,577,249 | 51% | 34,441,455 | 47% | 72,018,704 | 98% | 73,479,164 |
| 1884 | 33,199,570 | 49% | 31,006,998 | 46% | 64,206,568 | 95% | 67,665,910 |
| 1885 | 35,895,835 | 50% | 32,156,032 | 45% | 68,051,867 | 94% | 72,104,956 |
| 1886 | 42,202,087 | 52% | 35,743,420 | 44% | 77,945,507 | 95% | 81,887,998 |
| 1887 | 44,494,079 | 50% | 39,269,448 | 44% | 83,763,527 | 93% | 89,831,221 |
| 1888 | 43,043,651 | 51% | 37,627,560 | 44% | 80,671,211 | 95% | 84,627,870 |
| 1889 | 40,751,779 | 51% | 33,303,437 | 42% | 74,055,216 | 93% | 79,575,984 |
| 1890 | 42,586,968 | 51% | 36,363,988 | 43% | 78,950,956 | 94% | 83,886,829 |

と最高値の39,269,448ポンドに達した。80年代に入った日本茶葉は、アメリカへの年間輸入額は全すべて3,000万ポンドを超過し、その輸入高は1868年の5倍になった。

日本茶葉の平穏に上昇した傾向と違い、アメリカへ輸出された中国茶葉は顕著に変動した。1868年はアメリカへ輸出された中国茶葉の割合が最大の年であり、中国茶葉の輸出総額は29,567,790ポンドで、総計37,843,612ポンドの茶葉が世界各地からアメリカへ輸出され、中国茶葉はアメリカが輸入した茶葉総額の78%と約8割を占めた。ちなみに1868年における日本茶葉は7,698,785ポンドであり、その割合は僅か20%であった。しかし1877年になると、中国茶葉の輸出高が僅か25,214,946ポンドになり、割合も43%に激減した。1868年から1877年にかけて

6) 農商務省農務局、「農務彙纂第二十三・茶葉ニ關スル調査」、『明治後期産業発達史資料』第273巻（龍溪書舎、1995年）、257-263頁。原典の数字は全てアラビア数字に改めた。以下の表（表2除く）も同様である。



グラフ 1. 1868-1890年輸米日中茶葉の輸入量

アメリカへ輸出した中国茶葉の割合が大幅に減少するが、日本茶葉は逆に中国茶葉と同額ほどになった。

グラフ 1 で示した日中茶葉の比率の推移を比較すれば、前期における日本茶葉の割合は増加傾向にあり、中国茶葉が全く対蹠的であることが見られる。1876年と1877年の二年分は日本茶葉の輸出高と割合が中国茶葉のそれを超過した。80年代になると、両方の折り線はほぼ穏やかになり、日本茶葉の割合が中国茶葉にやや劣ったが、その差が小さく、アメリカ茶葉市場のシェアは中国と日本とがそれぞれが分け合い、日本茶葉と中国茶葉の激しいシェア争いが見られた。そこで1880年代のアメリカ茶葉市場における日中茶葉の競争状況について次節で説明したい。

二、1880年代アメリカ市場における日中緑茶の競争動向

グラフ 1 に示したように、80年代になると、日中間の茶葉の競争が日々激しくなり、日本茶葉は中国茶葉に追いついた。表 2 から、19世紀における日中茶葉の競争は1880年代から始まったと言える。アメリカ市場における中国茶葉のシェアは、1860年代の96%から1900年代の49%に減少し、19世紀が終わる前に、1880年から1890年までの10年間は日本茶葉の競争力が最強の時代であり、しかも1880年代にその市場占有率は46%となり、最高値に達した。

日本茶葉のアメリカ市場への進出により中国茶葉の占有率が減少し、さらに1870年代にアメリカ茶葉市場において中国茶葉の割合は激減した。また80年代になると、アメリカの茶葉市場において日本茶葉が逆に上昇し、中国茶葉にとって厳しい試練となり、その割合が50%を割り込んだ。しかし、日本茶葉の割合は1860年の0.11%から1880年の46.68%に急増し、アメリカ茶葉市場において両国の茶葉貿易には優劣がなくなった。

1880年代に、アメリカ合衆国の紐育（ニューヨーク）と桑港（サンフランシスコ）に駐在し

表2：アメリカ茶葉市場における中日両国の茶葉占有率⁷⁾ (1860-1900)

(千磅、%)

| 年度 | 合計 | 中国茶葉 | | 日本茶葉 | |
|------|--------|--------|-------|--------|-------|
| | | 数量 | 比率 | 数量 | 比率 |
| 1860 | 31,695 | 30,558 | 96.41 | 35 | 0.11 |
| 1870 | 47,406 | 35,202 | 74.25 | 8,825 | 18.61 |
| 1880 | 72,162 | 36,187 | 50.25 | 33,688 | 46.68 |
| 1890 | 83,884 | 42,586 | 50.77 | 36,363 | 43.35 |
| 1900 | 84,845 | 42,284 | 49.84 | 33,949 | 40.01 |

ていた日本領事が、当地の茶葉市場の貿易状況について領事報告に詳しく記録した。そこで、日本領事報告の一部である『通商彙編』のアメリカ茶葉貿易に関する資料を参考に、1880年代のアメリカ市場における日中茶葉の競争動向を明らかにしたい。

ニューヨークとサンフランシスコは、アメリカの主な茶葉市場であり、大量の輸入茶葉の販売や積み替えが行われた。日本領事報告では、ニューヨークとサンフランシスコで行われた茶葉の輸入、販売及び積み替え状況に関する記録が残されている。そこで本論文は、各年度によって、毎年のニューヨークとサンフランシスコ市場の日中茶葉商況をそれぞれ分析し、毎年の茶葉商況の変動から日中茶葉の競争状況を明確にしたい。

1、1881年アメリカ茶葉市場における日中緑茶の商況

以下の表3、4は、アメリカのニューヨーク港に駐在していた日本領事が、1881年（明治14年）における日本と清朝中国からアメリカへ輸入された茶葉について記録した報告資料によって整理したものである。ニューヨークの1881年（明治14年）の茶葉市場の商況の変化を現すため、表3は1880年（明治13年）の茶葉消費額も記入し、表4は明治10年から13年まで（1877-1880）の日中両国の茶葉輸入額を加えた。

1) ニューヨーク港の商況

1881年（明治14年）に、ニューヨークに駐在していた日本領事が1880年と1881年の茶葉商況について記録したデータに基づいたものが表3である。表3の「在荷数量」と「消費数量」については、1880年と1881年にニューヨーク市場における各種茶葉（中国緑茶・日本茶葉・紅茶）の在荷総額は、1880年と1881年における茶葉の輸入高が前の年に残された未販売の数量をそれぞれ加えものであり、また、同じ計算方法で1880年の在荷総額と1881年1月1日に統計した余剰茶葉数を比較することにより、1880年において各種茶葉の実際消費数もわかる。1881年ニュ

7) 『貿易月刊』、1941年2月、29頁、陶徳臣、「清至民国時期中国茶葉海外市場分析」、『安徽史学』第6期（安徽省社会科学院、2009年）、33-41頁。

表3. 1881年（明治14年）紐育港茶商況⁸⁾

単位：斤

| | | 支那緑茶 | 日本 | 紅茶 | 合計 |
|--------------------|--------------------|------------|------------|------------|------------|
| 1881年 | 明治14年1月1日茶ノ在荷高 | 2,437,612 | 7,013,216 | 4,269,094 | 13,719,922 |
| | 1月1日ヨリ15年1月1日迄ノ輸入高 | 19,654,594 | 18,680,660 | 24,893,018 | 63,228,272 |
| | 右両口合セ14年ノ総在荷高トス | 22,092,206 | 25,693,867 | 29,162,112 | 76,948,194 |
| 1880年 | 明治13年1月1日茶ノ在荷高 | 4,408,750 | 2,347,344 | 3,417,359 | 10,173,453 |
| | 1月1日ヨリ14年1月1日迄ノ輸入高 | 13,761,773 | 24,626,551 | 20,333,138 | 58,721,472 |
| | 右両口合セ13年ノ総在荷高トス | 18,170,528 | 26,973,895 | 23,750,497 | 68,894,915 |
| 明治14年1月1日茶ノ在荷高ヲ引去リ | | 2,437,612 | 7,013,216 | 4,269,094 | 13,719,922 |
| 13年實際消費高 | | 15,732,911 | 19,960,679 | 19,481,403 | 55,174,992 |
| 明治14年輸入高之差異 | | +5,892,821 | -5,945,891 | +4,559,880 | +450,688 |

ーヨークへ輸出された中国緑茶の輸入高は19,654,594斤となり、在荷総額は22,092,206斤であり、前年1880年における13,761,773斤である輸入高と比べると、1881年の中国緑茶は5,892,821斤を増加した。中国緑茶にひきかえ、日本茶葉は、1881年の輸入額は前年より5,945,891斤を減らしたが、1880年の「消費数」から見ると日本茶葉の実際消費数は最大で、同年の年間茶葉消費総額（中国緑茶、日本茶葉と紅茶を含む）のうち中国緑茶が占める割合は僅か28.5%となり、日本茶葉は36.2%に達した。全般の情勢から見ると、1880年より1881年のニューヨーク茶葉市場における輸入された茶葉数量の増加傾向が見られる。

同年におけるニューヨークの日本領事報告には、当年茶葉市場の茶葉商況について「緑茶ノ景況⁹⁾」と「紐育茶市ノ概況¹⁰⁾」という二つの記録がある。「緑茶ノ景況」には、市場における緑茶の販売状況に関する記事がある。「一、二兩月間緑茶ノ景況ヲ以テ昨年ニ比スレハ、稍々景氣ヲ落シタリ。同月間需用ノ最モ多カリシハモーニユー、テンカイノ兩種ナリ。然レトモ價ニ至テハ一昨年ヨリモ下落セシコト三仙乃至六仙ナリキ。三月中ハ市場ノ取引至テ僅少ナリシモ、糶賣所ニ於テハ數千箱ノ緑茶ヲ安相場ニテ賣捌タルニヨリ、市價ハ彌下落ヲ生シタリ」と記述し、1881年第一四半期の緑茶は、1880年に比べ少し不景気で、市場価格も下落した。第二四半期になると、「四月中ハ一般ノ緑茶稍々其景氣ヲ挽回セリ。内地諸州ヨリノ需用モ多ヲ隨テ市價モ三月ヨリハ一ニ仙ヲ引進シテタリ。五月中ノ氣配ハ去月ニ均シク取引高モ殊ニ多ピンセー緑茶ノ相場ハ二仙ヨリ三仙迄上向ニ進シタリ。六七ノ兩月ニハ可ナリノ取引ヲナシタリ。又ヨーコンク及ヒテンカイノ兩種ノ需用ヲ増シ、市價モ至テ固鞏ナリキ」と、市場の状況が好転して市場需要も絶えず増えていた。それとともに、緑茶の市場価格は上昇した。十月には、「緑茶ノ輸入高モ巨額ニシテ、市價漸々下向ノ色ヲ顯セリ」となり、緑茶輸入量の供給が需要を上回る

8) 「紐育之部」、『通商彙編』第1巻（外務省記録局）、39頁、40頁。

9) 「緑茶ノ景況」、「紐育之部」、『通商彙編』第1巻（外務省記録局）、43頁、44頁。

10) 「紐育茶市ノ概況」、「紐育之部」、『通商彙編』第1巻（外務省記録局）、42頁。

表4. 1881年（明治14年）清朝日本より桑港を経由で紐育へ輸入した茶葉の輸高¹¹⁾

単位：封度（数量）

| | | 日本茶 | 支那茶 |
|-------|-----|------------|-----------|
| 1881年 | 1月 | 294,362 | 87,969 |
| | 2月 | 65,847 | 131,184 |
| | 3月 | 463,539 | 72,927 |
| | 4月 | 279,681 | 28,231 |
| | 5月 | 11,193 | 14,502 |
| | 6月 | 2,592,217 | 307,833 |
| | 7月 | 962,213 | 399,394 |
| | 8月 | 393,669 | 1,047,642 |
| | 9月 | 2,265,052 | 503,323 |
| | 10月 | 1,336,712 | 622,172 |
| | 11月 | 362,206 | 262,906 |
| | 12月 | 293,102 | 198,446 |
| | 合計 | 9,319,793 | 3,766,429 |
| 1881年 | | 13,086,222 | |
| 1880年 | | 18,925,889 | |
| 1879年 | | 15,750,773 | |
| 1878年 | | 10,910,229 | |
| 1877年 | | 14,332,985 | |

ために価格は再下落した。「紐育茶市ノ概況」によると、「國中一般ノ商業及製造等モ益々其繁榮ヲ極メ、茶ノ需用モ前年ニ比スレハ大ニ其増加ヲ顯シタリ」と、1881年は去年より、ニューヨーク市場における茶葉の需要は大いに増加した。しかし、「茶ノ在荷高ノ實際需高二超過セシト糶賣所ノ捨賣」と「茶商等取引上互ニ競争ヲ專ラトスル」などの原因で「當市場ノ景況ハ至テ不景氣ヲ極メタリ」となった。しかし、「四月ニ差入漸ク各州河運ノ便開ケタルヲ以テ、一時ニ其需用ヲ増加セリ」と、4月にアメリカ各州の茶商はニューヨークへ茶葉を購入したため、ニューヨーク市場における茶葉の販売額も価格も増えた。

1881年のニューヨークにおいて茶葉の需要が、1880年より増加した原因について、『通商彙編』には日本領事が調査した結果が掲載された。第一は、ニューヨークと違い、アメリカ内陸の各州は新茶に対する需要が高かった¹²⁾。第二は、人口や移住民が増加し、1881年のニューヨークの移住民数は713,000人となり、1880年の移住民数に比べると113,000人が増加した¹³⁾。茶葉消費者の増加に従って茶葉販売額も当然増えた。第三は、茶税である。1880年以降、カナダ政府

11) 「明治十四年中支那日本ヨリ桑港ヲ經當紐育港へ輸入シタル茶ノ輸高」、「桑港之部」、『通商彙編』第1巻（外務省記録局）、45頁。

12) 「合眾國ニ於テ茶ノ需用増加スルノ原因」、「紐育之部」、『通商彙編』第1巻（外務省記録局）、42頁。

13) 同上。

は輸入茶葉に高い茶税をかけたために日中両国からの直輸入茶葉の数量が下降した。アメリカの茶税が相対的に安かったため、茶商は利益の多いアメリカを選んだ¹⁴⁾。

ニューヨーク市場で販売された多数の日中茶葉はサンフランシスコから運送され、日本領事報告ではこの部分の茶葉数量についてのデータも表4に掲載している。

1881年（明治14年）におけるサンフランシスコからニューヨークへ運送された中国茶葉と日本茶葉の輸入状況を表4に示し、また、1877年から1881年にかけて日中茶葉の輸入総額も記入した。表4で1881年の毎月における日中茶葉の輸入高に見られるように、サンフランシスコを経由してニューヨークへ輸出された日本茶葉の数量が中国茶葉より顕著に多かったが、両国の茶葉輸入総額は1879年の15,750,773ポンドと1880年の18,925,899ポンドと比較すれば大幅に減少したのである。

2) サンフランシスコ港の商況

日本領事報告では、1881年のサンフランシスコの茶葉商況に関する記録が同年の8月から見られる。『通商彙編』第1巻の「桑港之部」には頻繁に見られる。『通商彙編』第1巻、「桑港之部」の「八月中桑港市場製茶ノ景況¹⁵⁾」によれば、8月における日中茶葉の在荷数量は十分に、茶葉の価格も茶葉の本質によって価格を設定したことが分かる。また『通商彙編』第1巻「桑港之部」の「九月中桑港市場製茶之景況¹⁶⁾」により9月の茶葉商況は変動がなく8月と同じであった。9月に8,002捆の日中茶葉がゲイリツク號船でサンフランシスコへ輸送され、2,550捆茶葉と7,874個の瓶詰めの茶葉が日本の横浜から輸入され、2,550捆の日中茶葉がオシアニク號貿易船によって輸入された。アメリカ大統領 James Garfield が暗殺された事件のため、「大統領ガーフ・ルド氏ハ、惡漢ギートナル者ノ爲メ狙撃セラレ、引續數月間ノ療養生死不定ノ際ナレハ、市況モ自ラ沈淪ノ狀ヲ呈シタリ¹⁷⁾」と、茶葉市場だけではなく、アメリカ全国が不安な状況であったが、サンフランシスコにおける茶葉の在荷は十分のため、茶葉市場にとってその影響は小さく景気もニューヨークより良かった。

『通商彙編』第1巻、「桑港之部」の「十月中桑港市場製茶ノ景況¹⁸⁾」に記録されたように、10月市場の商況は前月より回復し、しかも、10月に中国茶葉の需要は日本茶葉をはるかに超えた。また、『通商彙編』第1巻、「桑港之部」の「十一月中桑港市場製茶ノ景況¹⁹⁾」から見ると、11月に茶葉販売商社であったデヨーンズ社の日中茶葉の販売状況が分かる。

12月のサンフランシスコ市場における茶葉販売の動向は、『通商彙編』第1巻、「桑港之部」

14) 同上。

15) 「八月中桑港市場製茶ノ景況」、「桑港之部」、『通商彙編』第1巻（外務省記録局）、180頁。

16) 「九月中桑港市場製茶之景況」、「桑港之部」、『通商彙編』第1巻（外務省記録局）、183頁。

17) 「紐育茶市ノ概況」、「桑港之部」、『通商彙編』第1巻（外務省記録局）、42頁。

18) 「十月中桑港市場製茶ノ景況」、「桑港之部」、『通商彙編』第1巻（外務省記録局）、183頁。

19) 「十一月中桑港市場製茶ノ景況」、「桑港之部」、『通商彙編』第1巻（外務省記録局）、187頁。

の「十二月中桑港市場製茶ノ景況²⁰⁾」に見られる。12月の茶市場は茶葉の在荷が十分であったが、需要が減少した。

以上の領事報告から、アメリカのニューヨークとサンフランシスコとが主な茶葉輸入地であったが、輸入された中国緑茶はニューヨークの方が多く、サンフランシスコはほとんどが日本茶であった。しかも、ニューヨークの茶葉消費額はサンフランシスコより一層高かったことが分かる。

2、1883年にアメリカ茶葉市場における日中緑茶の商況

『通商彙編』では1882年（明治15年）の輸米緑茶に関する記録がないため、ここでは省略する。表5は、1872年（明治5年）から1883年（明治16年）における日本茶と中国緑茶及び中印紅茶の輸入額の年度比較表である。表6と表7は、日本領事が報告したものによって整理した明治16年におけるアメリカのニューヨークとサンフランシスコの日中茶葉の消費状況である。『通商彙編』では、明治16年のサンフランシスコ茶葉についての記録は1月から5月までのデータしかなく、後半の調査がないため、明治16年におけるサンフランシスコの茶葉消費状況について、上半期のデータを整理し表5を作成した。表8はサンフランシスコにおいて明治15年と明治16年の日本茶葉価格の比較表である。

『通商彙編』第5巻の「紐育之部」では、1884年（明治17年）にニューヨークに駐在した日本

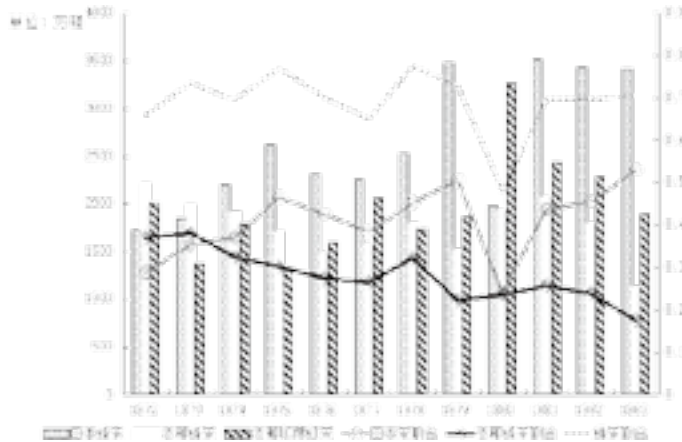
表5. 1872年（明治5年）から1883年（明治16年）までアメリカが輸入した製茶比較表²¹⁾

単位：磅（数量）

| 年度 | 日本緑茶 | 支那緑茶 | 支那印度紅茶 | 合計 |
|------|------------|------------|------------|------------|
| 1872 | 17,271,617 | 22,134,339 | 20,172,627 | 59,678,577 |
| 1873 | 18,459,751 | 19,846,729 | 13,843,244 | 52,149,724 |
| 1874 | 21,969,308 | 19,218,652 | 17,884,509 | 59,072,469 |
| 1875 | 26,282,956 | 17,076,417 | 13,039,901 | 56,399,274 |
| 1876 | 23,218,491 | 14,937,560 | 16,023,074 | 54,359,125 |
| 1877 | 22,558,088 | 15,623,372 | 20,574,460 | 58,755,920 |
| 1878 | 25,350,710 | 17,987,573 | 17,484,458 | 55,819,741 |
| 1879 | 34,758,172 | 15,333,000 | 18,664,685 | 68,755,855 |
| 1880 | 19,778,129 | 19,339,196 | 32,629,076 | 81,746,401 |
| 1881 | 35,137,933 | 20,728,746 | 24,340,632 | 80,187,301 |
| 1882 | 34,314,548 | 18,063,300 | 22,820,738 | 75,198,586 |
| 1883 | 34,263,407 | 11,414,529 | 18,935,127 | 64,613,063 |

20) 「十二月中桑港市場製茶ノ景況」、「紐育之部」、『通商彙編』第1巻（外務省記録局）、195頁。

21) 「一千八百七十二年以來日本支那印度ヨリ合眾國へ輸入シタル製茶比較表」、「紐育之部」、『通商彙編』第5巻（外務省記録局）、112-113頁。



グラフ 2. 1872年-1883年日本中国印度よりアメリカへ輸出された茶葉比較表

領事である高橋新吉の「製茶ノ儀ニ付卑見報告」に、1872年から1883年にかけて日本、中国及び印度からアメリカへ輸出された茶葉数量を統計したデータがあり、表5は、それに基づいて作成した。ここに示したように、1872年から1883年までの12年間にわたり、日中緑茶の輸出額はアメリカの輸入茶葉総額の半数を占めていなかった1880年以外、他の年度の日中緑茶の輸出額は全体の7割以上を占めていたことから、緑茶はアメリカが輸入した主な茶種であったことが分かる。

中国緑茶の輸入高は、日本緑茶の上昇に比べ下降傾向にあり、しかも1883年は最低の年としてその輸入額は11,414,529ポンドとなり、日中印茶葉の輸入総額のうちわずか18%を占めるのみであった。しかし、同年における日本緑茶の輸入額は最高値に達しなかったが、1883年は日本緑茶の割合が最高の年であった。1883年、日中緑茶の輸入額の比率は3:1であり、日本緑茶の輸入高も割合も同年の中国緑茶より大いに高かった。次は1883年におけるアメリカの主な港としたニューヨークとサンフランシスコの茶葉市場で日中緑茶の商況について検討する。

1) ニューヨーク茶葉市場

表6は、1883年（明治16年）におけるアメリカのニューヨーク茶葉市場での日本緑茶と中国緑茶の販売状況と価格変化を整理したものである。日中緑茶の価格は「価格差別」、茶葉品質ごとに異なった価格で販売するという原理によって、大体7つのレベルに分けた。この表で統計した価格範囲は同じレベルである各種の緑茶価格の平均値である。

「賣捌キタル茶」という項目のデータから見ると、1883年上半期の中国緑茶の販売額は日本緑茶より少し高かったが、下半期は上半期に反して日本緑茶に超えられたことが分かる。

茶葉価格の面では、日本緑茶も中国緑茶も「価格差別」を行った、すなわち、茶葉市場における異なった消費層や茶葉品質に対して茶葉を違う等級に分け、それぞれの価格範囲も茶葉の

表 6. 1883年（明治16年）紐育港日支茶商況²²⁾

単位：価額／仙（セント）

| 1883年 | | 一月 | | 二月 | | 三月 | |
|-------------|-----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | | 日本茶 | 支那緑茶 | 日本茶 | 支那緑茶 | 日本茶 | 支那緑茶 |
| 賣捌キタル茶 | | — | — | 5,600箱 | 25,000箱 | 27,100箱 | 18,300箱 |
| 価額 (平均値) | 第一等 | 38～35 | 50～37 | 38～35 | 45～37 | 38～35 | 45～37 |
| | 第二等 | 33～30 | 32～28 | 33～31 | 32～30 | 33～31 | 32～30 |
| | 第三等 | 28～27 | 25～23 | 29～28 | 27～24 | 30～28 | 27～24 |
| | 第四等 | 29～24 | 21～18 | 26～24 | 22～20 | 26～24 | 22～20 |
| | 第五等 | 22～20 | 15～13 | 22～20 | 16～14 | 22～21 | 16～15 |
| | 第六等 | 19～17 | 10～9 | 19～17 | 10～9 | 20～18 | 12～10 |
| | 第七等 | 15～13 | — | 15～13 | — | 16～14 | — |
| 1883年 | | 四月 | | 五月 | | 六月 | |
| | | 日本茶 | 支那緑茶 | 日本茶 | 支那緑茶 | 日本茶 | 支那緑茶 |
| 賣捌キタル茶 | | — | — | 5,000箱 | 700箱 | 6,500捆 | 10,400捆 |
| 価額 (平均値) | 第一等 | — | — | 35～33 | — | 33～32 | 40～38 |
| | 第二等 | — | — | 31～29 | 40～30 | 30～28 | 33～30 |
| | 第三等 | — | — | 26～24 | 33～30 | 25～24 | 28～25 |
| | 第四等 | — | — | 23～21 | 28～25 | 22～20 | 22～18 |
| | 第五等 | — | — | 20～18 | 22～20 | 19～18 | 15～14 |
| | 第六等 | — | — | 17～16 | 15～14 | 17～15 | 10～9 |
| | 第七等 | — | — | 14～12 | 10～9 | 14～12 | — |
| 1883年 | | 七月 | | 八月 | | 九月 | |
| | | 日本茶 | 支那緑茶 | 日本茶 | 支那緑茶 | 日本茶 | 支那緑茶 |
| 賣捌キタル茶 | | 15,627捆 | 14,275捆 | 15,220箇 | 11,168箇 | 11,300捆 | 7,800捆 |
| 価額 (平均値) | 第一等 | 38～36 | 42～37 | 38～36 | 42～37 | 40～38 | 55～43 |
| | 第二等 | 34～32 | 34～32 | 34～32 | 42～37 | 35～32 | 40～36 |
| | 第三等 | 30～20 | 30～28 | 30～28 | 34～32 | 30～29 | 36～29 |
| | 第四等 | 27～18 | 26～24 | 26～24 | 30～28 | 26～25 | 26～24 |
| | 第五等 | 23～16 | 22～20 | 20 | 26～24 | 22～20 | 23～22 |
| | 第六等 | 19～14 | — | 17 | 22～20 | 18～17 | 18～16 |
| | 第七等 | 12～11 | — | 17 | — | 16～15 | 14～12 |
| 1883年 | | 十月 | | 十一月 | | 十二月 | |
| | | 日本茶 | 支那緑茶 | 日本茶 | 支那緑茶 | 日本茶 | 支那緑茶 |
| 賣捌キタル茶 | | 6,700箇 | 14,600箇 | 11,400捆 | 23,900捆 | 4,500捆 | 14,500捆 |
| 価額 (平均値) | 第一等 | 40～38 | 53～42 | 38～35 | 45～38 | 38～35 | 45～38 |
| | 第二等 | 35～32 | 39～36 | 32～30 | 35～31 | 32～30 | 35～31 |
| | 第三等 | 30～28 | 31～29 | 28～26 | 29～27 | 28～27 | 29～27 |
| | 第四等 | 26～24 | 29～26 | 24～23 | 25～22 | 24～23 | 25～22 |
| | 第五等 | 22～20 | 25～24 | 20～19 | 20～18 | 20～19 | 20～18 |
| | 第六等 | 18～17 | 23～19 | 17～16 | — | 17～16 | — |
| | 第七等 | 16～15 | — | 15 | — | 15～14 | — |

レベルに基づいて定価され、それとともに茶葉の販路を拡大するものである。茶葉の第一等から第七等まで、中国緑茶の価格範囲は55仙～9仙となり、日本緑茶は40仙～11仙であった。こ

22) 外務省記録局、「紐育之部」、『通商彙編』、「価額」：第2巻：27頁、30頁、31頁、35頁、36頁、43頁、47頁、48頁；第3巻：167-168頁、178-179頁、183-184頁、186-187頁、191-194頁。「賣捌キタル茶」：第2巻：30頁、35頁、43頁、47頁；第3巻：167頁、177頁、183頁、185頁、191頁、193頁。

のように、日本茶葉の価格差は中国緑茶よりもはるかに小さく、しかも、中国緑茶は日本茶に比べその等級数が少なかった。それにもかかわらず、日中緑茶の市場価格の分布状況から考えると、中国緑茶のほうがその価格の分布範囲は広がったことが分かる。

しかしながら、中国緑茶の価格の変動はかなり大きく、日本緑茶の価格は中国緑茶より比較的安定していた。日中緑茶の価格範囲と価格差によると、中国緑茶の価格のほうが高かったが、価格の変動も日本茶葉より大きかったことがわかる。

1883年におけるニューヨークの茶葉市場の変動は大きく、『通商彙編』第2巻と第3巻の「紐育之部」に茶葉市場における日中茶葉の変動状況についての記録がある。『通商彙編』第2巻、「紐育之部」の「明治十六年一月中紐育茶商況」により、1月に「當茶市ノ景況ハ客歲十二月ヨリ大ニ活潑ノ方ニ赴ケタリ²³⁾」とあるように、ニューヨーク茶葉市場の商況が良く、日本茶葉は「日本茶ノ景況ハ、客歲十二月ト大同小異ニシテ、市價引續鞏固ナリ。然レトモ一月中ハ重ニ糶賣所ニ於テ賣捌ケリ²⁴⁾」と記述したように、去年1882年の年末と大体同じで、市場価格も変動しなかった。中国緑茶は、「支那緑茶ノ景氣ハ客歲ニ比スレハ稍々宜シキ方ナリ。上等品ハ糶賣所内外共ニ取引多シ、然レトモ大概相場ハ客歲十二月ト同一ナリ。下等品ニ至テハ相場益下落シ、糶賣所ニ於テ安價ニ賣捌クニ非レハ、他ニ取引ナシ²⁵⁾」と記されている。

また2月の茶葉商況について『通商彙編』第2巻、「紐育之部」の「明治十六年二月中紐育茶市景況²⁶⁾」により、2月のニューヨーク茶葉市場は不景気となり、その原因は茶葉品質の問題であった。アメリカ政府は自国へ輸出された粗悪不正茶葉に対して国民の健康のために悪品質茶葉の輸入を禁止するという議案を可決した。この議案によって、下等茶の輸入量と販売額は激減したが、すでにニューヨーク茶葉市場へ輸入された日中茶葉にとってはさして影響しなかった。しかし、3月になると、「當府茶商等カ合衆國政府ニ於テ粗悪茶ノ輸入ヲ禁止スルノ議案決定²⁷⁾」と「本月下旬當府有名ノ茶商「アイウスビーチャル会社」破産ヲ告ケタル²⁸⁾」などの原因で、「各商等互ニ信用ヲ失シ、一時茶商中ノ借貸金利ヲ引上ケ、取引上大ニ不景氣ニ至レリ乍併投機茶商等金利ノ上進セシヲ以テ、下等茶ノ買入方ヲ見合スルノ有様ナリ²⁹⁾」と記されるように、当月の茶葉市場は混乱していた。中国緑茶は、「明治十六年三月中紐育茶市景況」に「不景氣ニシテ、取引モ大概糶賣所ニ於テナセリ。相場ハ去月ト差異アルヲ見ス³⁰⁾」と言われるような

23) 「明治十六年一月中紐育茶商況」、「紐育之部」、『通商彙編』第2巻（外務省記録局）、26頁、27頁。

24) 同上。

25) 同上。

26) 「紐育之部」、「明治十六年二月中紐育茶市景況」、『通商彙編』第2巻（外務省記録局）、30頁。

27) 「紐育之部」、「明治十六年三月中紐育茶市景況」、『通商彙編』第2巻（外務省記録局）、35頁。

28) 同上。

29) 同上。

30) 同上。

状況となった。さらに『通商彙編』第2巻、「紐育之部」の「明治十六年六月中紐育茶市景況³¹⁾」に記録された記事からも明らかなように、この議案は中国緑茶とりわけ中等以下の緑茶に大きな影響を与えたことが知られる。日本茶葉にも波及し、「日本古茶ハ益不景氣、糶賣所ノ外ハ容易ニ賣捌口ナシ。直段モ前月ノ相場表ニ較スレバ下落ノ方ナリ³²⁾」と記録されたように、前月より販売額が下落した。

『通商彙編』第3巻、「紐育之部」の「十一月中旬迄當府茶市商況³³⁾」に「不正茶輸入禁止条例」の実行は茶葉市場の正常な秩序を恢復した。日本茶葉の市況は正常であったが、中国緑茶はまだ影響され、市場価格が下落した。しかし、12月になると、「月末ニ近寄ルニ隨ヒ、各種ノ賣買漸次減少ノ向ニテ、例ノ如ク賣買主共ニ、新年迄其業ヲ猶豫スルノ傾向アリ³⁴⁾」という原因で、日本茶葉も「日本茶ハ割合價格ノ變動ナケレ共、市況不活潑ナリ³⁵⁾」となった。

2) サンフランシスコ茶葉市場

表7と表8は、1883年（明治16年）のサンフランシスコ茶葉市場における茶葉商況を反映するものである。そのうち、表7のデータは『通商彙編』、第2巻の「桑港之部」に記録されたデータや文字資料によって作成した。サンフランシスコの報告では1883年の記録が五か月の部分のみ残されたため、1883年上半期における日中緑茶の消費状況のみ分析する。

上記のデータにより、輸入量でも消費量でも日本茶葉は中国緑茶をはるかに超えていたことが分かる。しかしながら、両方の価額を比較すると、2月に日本茶の輸入数量は中国緑茶の約3倍となったが、日中茶葉の価額の差は3倍未満であった。3月の日中茶葉は、輸入数量と価額の上ではその格差はほぼ同じであった。しかし4月になると、日本茶葉は輸入高の上では、その302,249ポンドが中国緑茶の132,759ポンドのおおよそ3倍に達したが、価額の面では、日本茶葉は39,273ドルとなり、中国緑茶の31,653ドルと差がほとんどない。5月の状況も同様に、日本茶葉は数量の面では中国緑茶の3倍以上となったが、価額ではその格差は僅か2倍である。このことから明なように、中国緑茶の価格は、日本茶葉の輸入価格を大いに超えていた。表6から1882年と1883年のサンフランシスコにおける日本茶葉の価額を比較すると、1883年において日本茶葉の輸入価額は1882年より1,630,045ドル減少したことがわかる。

1883年にニューヨーク駐在の日本領事高橋新吉による「明治十六年中紐育府茶市商況報告」では有名な茶葉商社であった「センニングス」が作成した「明治十六年紐育茶市商況并ニ評説報告」を写し取っている。この報告書では、近年のニューヨークとサンフランシスコ茶葉市場

31) 「紐育之部」、「明治十六年六月中紐育茶市景況」、『通商彙編』第2巻（外務省記録局）、47頁。

32) 同上。

33) 「十一月中旬迄當府茶市商況」、「紐育之部」、『通商彙編』第3巻（外務省記録局）、190頁。

34) 「十六年十二月中當府茶市商況報告」、「紐育之部」、『通商彙編』第3巻（外務省記録局）、191頁、192頁。

35) 同上。

表7. 1883年（明治16年）半年間桑港日清茶消費状況³⁶⁾

単位：封度（数量）/ 弗（価額）

| 1883年 | | | 一月 | 二月 | 三月 | 四月 | 五月 |
|-------|----|----|-----------|---------|---------|---------|---------|
| 輸入 | 日本 | 数量 | 1,137,572 | 442,525 | 576,950 | 302,249 | 463,514 |
| | | 価格 | 236,233 | 92,749 | 100,104 | 39,273 | 63,369 |
| | 清国 | 数量 | — | 147,354 | 235,862 | 132,759 | 166,437 |
| | | 価格 | — | 37,746 | 51,836 | 31,653 | 32,571 |
| 直輸出茶 | 日本 | 数量 | — | 281,672 | 384,161 | 204,072 | 31,015 |
| | | 価格 | — | 63,398 | 76,611 | — | 43,320 |
| | 清国 | 数量 | — | 68,357 | 110,686 | 113,158 | 91,982 |
| | | 価格 | — | 21,969 | 29,439 | — | 19,831 |
| 内国消費高 | 日本 | 数量 | — | 160,853 | 192,780 | 98,177 | 153,364 |
| | | 価格 | — | 29,351 | 33,593 | — | 20,049 |
| | 清国 | 数量 | — | 78,997 | 125,176 | 19,601 | 74,455 |
| | | 価格 | — | 15,777 | 22,397 | — | 12,740 |

表8. 1882-1883年桑港日本茶輸入価額比較表³⁷⁾

単位：弗（価額）

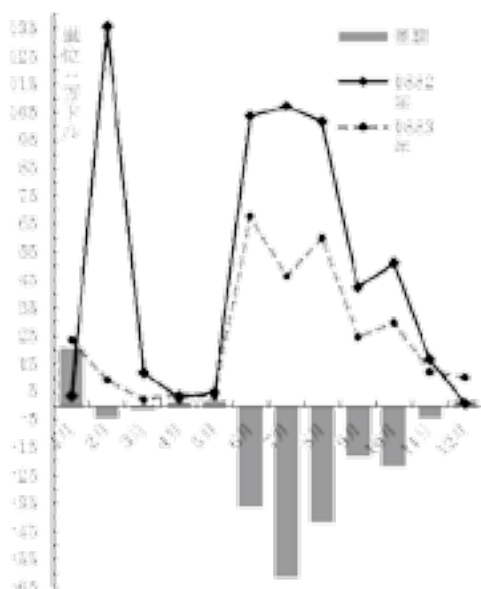
| | 1882年 | 1883年 | 差異 |
|-----|-----------|-----------|------------|
| 1月 | 34,905 | 236,233 | +201,328 |
| 2月 | 1,358,871 | 92,749 | -43,122 |
| 3月 | 118,806 | 20,204 | -8,602 |
| 4月 | 28,791 | 39,273 | +10,482 |
| 5月 | 46,972 | 36,369 | +16,397 |
| 6月 | 1,036,075 | 677,842 | -358,233 |
| 7月 | 1,073,318 | 463,457 | -609,861 |
| 8月 | 1,016,959 | 600,241 | -416,718 |
| 9月 | 423,465 | 245,503 | -177,962 |
| 10月 | 511,083 | 295,849 | -215,234 |
| 11月 | 164,911 | 121,828 | -43,083 |
| 12月 | 8,746 | 102,029 | +14,563 |
| 總計 | 4,678,620 | 3,048,675 | -1,630,045 |

における日本と中国茶葉の商況を詳しく評価し、輸入額と市場価格の変動原因も検討している。

日本茶葉の市況について、『通商彙編』第3巻、「桑港之部」の「日本茶ノ市況」に見られ

36) 「桑港之部」、『通商彙編』第2巻（外務省記録局）、日本：一月：145頁；二月：147頁；三月：152頁；四月：154頁；五月：158頁。清国：二月：150-151頁；三月：153-154頁；四月：156-157頁；五月：159頁。

37) 「桑港之部」、『通商彙編』第4巻（外務省記録局）、235-236頁。



グラフ 3 ●●●●●●●●●●

る³⁸⁾。日本茶葉の価格が変動する契機は新茶の到着時であり、新茶の到着前に、当地に残された古茶を販売し、古茶は値下げ処分し、新茶が到着した後、新茶だけではなく、販売出来ずに残された古茶も値上げして販売するということで、消費者から不評を受ける懸念があった。

中国緑茶の市況が変動する理由は、『通商彙編』第3巻、「桑港之部」の「支那緑茶ノ市況³⁹⁾」により、日本茶葉と同じように、新茶の到着が茶葉の定価に影響した一つの原因である。しかし、日本茶葉と少し異なったところもあり、それは新茶に対する需要は供給を越えるために価格が騰貴することである。また、もう一つ原因は「「ピングスエイ」ハ、景氣常ナク一月ヨリ四月迄ハ糶賣場ニ於テ未曾有ノ低落ヲ來シ、且ツ該茶ハ飲用ニ有害ナリトテ、其實卻ヲ政府ニ於テ禁制セシカ為メ、該茶ノ賣買ハ五月ニ至テ一時停滯セリ⁴⁰⁾」と記されるように、中国緑茶である「ピングスエイ」は茶葉品質の問題でアメリカに禁止されたが、この茶葉の需要は上昇し、価格もそれとともに増加した。

3、1884年アメリカ茶葉市場における日中緑茶の商況

表9は、1884年（明治17年）の日本領事報告に掲載されたニューヨーク茶葉市場における日中茶葉の商況に関するデータによって作成したものである。『通商彙編』では、1884年のサンフランシスコ茶葉についての記録は1月から6月までのデータしかなく、後半の資料がない

38) 「日本茶ノ市況」、「桑港之部」、『通商彙編』第3巻（外務省記録局）、197頁。

39) 「支那緑茶ノ市況」、「桑港之部」、『通商彙編』第3巻（外務省記録局）、198頁、199頁。

40) 同上。

め、明治17年におけるサンフランシスコの中日茶葉消費状況について、上半期のデータを整理して表9を作成し、表9のデータによってグラフ2を作成した。1883年と1884年においてサンフランシスコへ輸出された日中茶葉に関係があるデータを整理すると表11になる。この表は、輸出数量と価額という両面からサンフランシスコ市場に進出した日本茶葉と中国茶葉を比較したものである。

1) ニューヨーク茶葉市場

右表9は、1884年（明治17年）のニューヨーク茶市場の状況を反映している。

去年の茶市場商況と比較すれば、中国緑茶も日本緑茶も1884年のほうが良かった。表9の統計形式は1883年の表6と同じで、1884年（明治17年）にアメリカのニューヨーク茶葉市場における日本緑茶と中国緑茶の販売状況と価格変化を整理したものである。

「賣捌キタル茶」から見ると、1884年第一四半期の中国緑茶の販売額は1883年の下半期に比べ回復し、また、第一四半期の中国緑茶の販売額が日本緑茶より多かったが、第二、第三四半期は第一四半期に反して日本緑茶に超えられたことになり、第四四半期になると、両方の販売量は優劣がなくなった。

茶葉価格の面では、1883年の状況と同じ、日本緑茶も中国緑茶も「価格差別」を行っていた。茶葉の第一等から第七等まで、中国緑茶の価格範囲は50仙～15仙となり、日本緑茶は40仙～13仙であり、日中緑茶の価格範囲は1883年より減少した。しかし、日本茶葉の価格差は1883年のように中国緑茶よりもはるかに小さく、しかも、中国緑茶は日本茶に比べその等級数が少なかった。そのため、日中緑茶の市場価格の分布状況は去年と同様に、中国緑茶のほうがその価格の分布範囲は広がったことが分かる。

1883年の市場価格に比べると、1884年において中国緑茶の価格は変動が減少した。日中緑茶の価格範囲と価格差によると、1884年のニューヨーク茶葉市場における日中緑茶の商況は1883年より優れている。中国緑茶と日本緑茶の販売数の側でも価格の側でもある程度高まり、価格差も下落した。

1884年におけるニューヨークの茶葉市場の変動も頻繁で、『通商彙編』第4巻と第5巻の「紐育之部」には茶葉市場における日中茶葉の変動状況についての記録がある。

『通商彙編』第4巻、「紐育之部」の「一月中茶市商況」により、1月に「一月早々茶市全体ニ好景氣ヲ呈シ⁴¹⁾」とあるように、ニューヨーク茶葉市場は好景気で、日本茶葉は「靜謐ニシテ、一月中前二週間ハ價格ニ別段ノ變化ナカリシモ其後輸入者并ニ茶商取引相場所ノ効力ニ依リ、大ニ其價ヲ進メ。即坐渡シノ品ハ上下トモ前回報道シタル市價ヨリ二仙乃至六仙程進ミ⁴²⁾」と記述したように、前年1883年の年末に比べ、日本茶葉全体の市場価格は2、3仙増えた。

41) 「一月中茶市商況」、「紐育之部」、『通商彙編』第4巻（外務省記録局）、128頁。

42) 同上。

表9. 1884年（明治17年）紐育港日支茶商況⁴³⁾

単位：仙（価額）

| 1884年 | | 一月 | | 二月 | | 三月 | |
|-------------|-----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| | | 日本茶 | 支那緑茶 | 日本茶 | 支那緑茶 | 日本茶 | 支那緑茶 |
| 賣捌キタル茶 | | 10,400捆 | 26,600捆 | 10,000捆 | 18,700捆 | 5,400捆 | 22,200捆 |
| 価額 (平均値) | 第一等 | 40～37 | 45～38 | — | — | 40～38 | 45～38 |
| | 第二等 | 35～33 | 35～32 | — | — | 36～34 | — |
| | 第三等 | 32～31 | 30～28 | — | — | 32～31 | 33～30 |
| | 第四等 | 30～28 | 25～23 | — | — | 30～28 | — |
| | 第五等 | 26～24 | 21～19 | — | — | 26～25 | 28～26 |
| | 第六等 | 22～20 | 16～15 | — | — | 25～24 | 24～23 |
| | 第七等 | 18～16 | — | — | — | 21～17 | 21～20 |
| 1884年 | | 四月 | | 五月 | | 六月 | |
| | | 日本茶 | 支那緑茶 | 日本茶 | 支那緑茶 | 日本茶 | 支那緑茶 |
| 賣捌キタル茶 | | 8,300捆 | 11,200捆 | 13,800捆 | 12,100捆 | 41,032捆 | 10,400捆 |
| 価額 (平均値) | 第一等 | 38～37 | 40～33 | 36～35 | 35～30 | 40 | 38～33 |
| | 第二等 | 33～32 | — | 31～30 | — | 36～35 | 38～33 |
| | 第三等 | 30～29 | 30～28 | 28～27 | 28～27 | 32～31 | 29～27 |
| | 第四等 | 28～27 | — | 24～23 | — | 29～28 | 29～27 |
| | 第五等 | 25～24 | 25～24 | 20～19 | 23～22 | 26 | 24～22 |
| | 第六等 | 23～22 | 22～20 | 18～17 | 20～19 | 18～17 | 21～19 |
| | 第七等 | 19～15 | 18～16 | 15～14 | 16～15 | 15～13 | 17～16 |
| 1884年 | | 七月 | | 八月 | | 九月 | |
| | | 日本茶 | 支那緑茶 | 日本茶 | 支那緑茶 | 日本茶 | 支那緑茶 |
| 賣捌キタル茶 | | — | — | 22,051捆 | 12,235捆 | — | — |
| 価額 (平均値) | 第一等 | — | — | 40～38 | 50～43 | 40～38 | 50～40 |
| | 第二等 | — | — | 35～34 | 50～43 | 36～34 | 50～40 |
| | 第三等 | — | — | 31～30 | 35～32 | 31～30 | 35～32 |
| | 第四等 | — | — | 28～26 | 35～32 | 28～26 | 35～32 |
| | 第五等 | — | — | 24～23 | 30～28 | 24～23 | 30～28 |
| | 第六等 | — | — | 21～20 | 26～24 | 21～19 | 26～23 |
| | 第七等 | — | — | — | — | — | 20～19 |
| 1884年 | | 十月 | | 十一月 | | 十二月 | |
| | | 日本茶 | 支那緑茶 | 日本茶 | 支那緑茶 | 日本茶 | 支那緑茶 |
| 賣捌キタル茶 | | 25,500捆 | 22,100捆 | 10,500捆 | 13,300捆 | 4,900磅 | 4,900磅 |
| 価額 (平均値) | 第一等 | 40～35 | 50～38 | 38～35 | 45～35 | 38～35 | 45～35 |
| | 第二等 | 33～31 | 50～38 | 33～31 | — | 32～31 | — |
| | 第三等 | 28～26 | 34～29 | 28～26 | 30～27 | 28～27 | 30～2 |
| | 第四等 | 24～23 | 27～25 | 24～22 | 25～23 | 25～23 | 25～23 |
| | 第五等 | 21～20 | 22～20 | 20～19 | 21～19 | 21～20 | 21～19 |
| | 第六等 | 18 | 19～17 | 18～17 | 17～16 | 19～18 | 17～16 |
| | 第七等 | — | 15～14 | 16～15 | 15～13 | 16～15 | 15～13 |

しかし、3月に中国緑茶は、「支那緑茶ハ、始終平均堅氣ノ方ナレトモ近比龍動ヨリノ着荷ト

43) 「紐育之部」、『通商彙編』（外務省記録局）、「価額」：第4巻：129頁、132頁、135頁、139-140頁、142-143頁；第5巻：146-150頁、154-155頁。「賣捌キタル茶」：第4巻：128頁、130頁、135頁、139頁、142頁；第5巻：145頁、149頁、153頁、155頁。

茶市一般不景氣ノ為メ價格下落セリ⁴⁴⁾」と記されるように、ニューヨーク茶葉市場の不景気により、価格が下落した。

また、5月の茶葉商況について、『通商彙編』第4巻、「紐育之部」の「五月中茶市商況」によれば、5月のニューヨーク茶葉市場の茶葉在荷量が増加したため、中国緑茶は毎ポンドに2仙を減少し、日本茶葉は2～5仙程下落した。さらに製茶取引相場所の失敗も茶葉価格の下降を招いたことが分かる⁴⁵⁾。

また、8月になると、「茶市ノ商況ハ甚不活潑ノ方ナリ。是毎夏例ニ因ナ然ルモノニシテ、別ニ怪ムニ足ラス。且清佛間開戦セハ必ス清國ヨリノ輸入ヲ停止スヘキ⁴⁶⁾」と、清仏戦争の勃発により、中国茶葉も「過半各種ノ價格ハ頗低落シタリ⁴⁷⁾」となった。

9月からアメリカがニューヨーク茶葉市場における投機商人を防止するため、個人的な販売を禁止した。そのため、10月に日本茶葉は「糶賣並ニ私店賣ノ分トモ強賣シタルヲ以テ、一等品ノ外各種トモ二仙乃至四仙ヲ低落シタリ⁴⁸⁾」となり、中国緑茶も「同様該場ニ於テ強賣シタルカ故ニ、價格下向ノ方ナリ⁴⁹⁾」となった。

2) サンフランシスコ茶葉市場

表10、11、12は、1884年（明治17年）のサンフランシスコ茶葉市場における茶葉商況の変動を表すものである。そのうち、表10のデータは『通商彙編』第4巻「桑港之部」に掲載された「公報第二一號」の内容によるものであり、公報に記録されたサンフランシスコの茶葉貿易部分は1883年と1884年の上半期のデータを比較したため、表10には、1883年と1884年上半期において日中緑茶の消費状況を統計する。表11は、1884年一年間のサンフランシスコへ輸出された日中茶葉の数量及び販売状況を反映するものである。

グラフ4は、表9の「差異」という項目で日中茶葉の月間輸入データによって作成したものである。表9に示したように、1883年から1884年まで日本茶葉の輸入価額変化の幅は中国茶葉よりかなり大きく、また、輸入額から見ると、日本茶葉の変動がさらに激しい。1884年のサンフランシスコへ輸入した日中茶葉の輸入量は1883年より減少したが、日本茶に比べ、中国茶葉は数量でも価額でも一層安定した。表9に統計したデータにより、1884年上半期において日本茶葉の輸入総額は4,789,346ポンドとなり、777,275ドルに値する。1883年の6,004,897ポンドより、1884年は1,215,551ポンド下落し、去年の2割を減少した。価額は442,395ドルを減らし、1883年の半数に相当する。中国茶葉は、数量と価額の下げ幅が日本より小さい。1883年上半期

44) 「三月中茶市商況」、「紐育之部」、『通商彙編』第4巻（外務省記録局）、130頁。

45) 「五月中茶市商況」、「紐育之部」、『通商彙編』第4巻（外務省記録局）、128頁。

46) 「八月中紐育茶市商況」、「紐育之部」、『通商彙編』第5巻（外務省記録局）、145頁。

47) 同上。

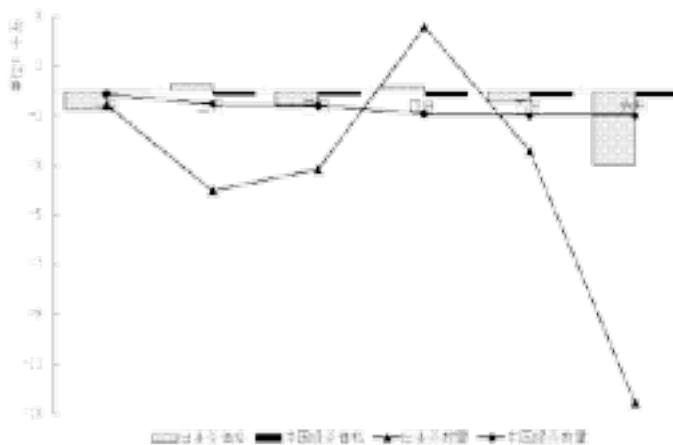
48) 「十月中紐育茶市商況」、「紐育之部」、『通商彙編』第5巻（外務省記録局）、149頁。

49) 同上。

表10. 1883年（明治16年）と1884年（明治17年）上半季間桑港へ輸入日本支那製茶表⁵⁰⁾

単位：封度（数量）／弗（価額）

| | | | 一月 | 二月 | 三月 | 四月 | 五月 | 六月 | 總計 |
|-------|----|----|-----------|----------|----------|----------|----------|------------|------------|
| 1883年 | 日本 | 數量 | 1,137,572 | 442,525 | 576,950 | 302,249 | 463,514 | 3,082,087 | 6,004,897 |
| | | 價格 | 236,233 | 92,749 | 110,204 | 39,273 | 63,369 | 677,842 | 1,219,670 |
| | 支那 | 數量 | 241,664 | 147,354 | 235,586 | 132,759 | 166,437 | 520,100 | 1,443,900 |
| | | 價格 | 54,528 | 37,746 | 51,836 | 31,653 | 32,571 | 153,985 | 362,319 |
| 1884年 | 日本 | 數量 | 1,077,598 | 845,183 | 261,692 | 559,551 | 221,004 | 1,824,318 | 4,789,346 |
| | | 價格 | 160,287 | 118,853 | 41,359 | 58,652 | 17,192 | 380,932 | 777,275 |
| | 支那 | 數量 | 230,445 | 94,959 | 176,708 | 40,797 | 68,630 | 421,040 | 1,032,579 |
| | | 價格 | 49,643 | 19,627 | 34,078 | 7,972 | 12,956 | 132,423 | 256,744 |
| 差異 | 日本 | 數量 | -59,974 | -402,658 | -315,258 | +257,302 | -242,510 | -1,257,769 | -1,215,551 |
| | | 價格 | -75,946 | +26,604 | -68,845 | +18,379 | -46,177 | -296,910 | -442,395 |
| | 支那 | 數量 | -11,219 | -52,395 | -58,878 | -91,962 | -97,807 | -99,060 | -411,321 |
| | | 價格 | -4,885 | -18,074 | -17,758 | -23,681 | -19,615 | -21,562 | -105,575 |



グラフ 4. 1883-1884年サンフランシスコ茶葉市場における日中茶葉輸入変化

において中国茶葉の数量は1,443,900ポンドとなり、1884年は411,321ポンドを減少し、価額の減少幅は3割である。しかし、全体から考えると、1883年と1884年上半期において日本茶葉の輸入総額は中国茶葉をはるかに超え、1884年上半期に日本茶の輸入量は中国茶葉の4倍で、輸入価額は3倍である。⁵⁰⁾

表11は、1884年一年間のサンフランシスコへ輸出された日中茶葉の数量及び販売状況を反映したものである。表に示したように、日本茶も中国茶も、下半期の輸入量と販売量は上半期より高く、しかも両方の最高の当地消費数は全く同じで、10月に集中していた。日本茶1月の輸

50) 「桑港之部」、『通商彙編』第4巻（外務省記録局）、279-280頁。

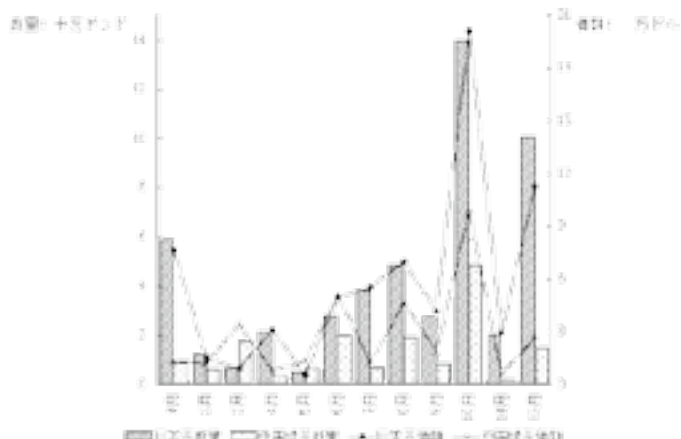
表11. 1884年（明治17年）日本支那ヨリ桑港へ輸入製茶表⁵¹

単位：封度（数量）／弗（価額）

| 1884年 | | | 一月 | 二月 | 三月 | 四月 | 五月 | 六月 | 半年合計 |
|-------|----|----|-----------|---------|---------|-----------|---------|-----------|-----------|
| 當地消費 | 日本 | 數量 | 592,333 | 121,580 | 64,396 | 217,431 | 50,426 | 281,639 | 1,327,805 |
| | | 價格 | 76,210 | 14,745 | 9,322 | 30,852 | 5,383 | 49,356 | 185,868 |
| | 支那 | 數量 | 89,954 | 62,188 | 176,708 | 40,797 | 68,630 | 198,384 | 636,661 |
| | | 價格 | 13,526 | 11,639 | 34,078 | 7,972 | 12,956 | 51,119 | 131,290 |
| 他方輸送 | 日本 | 數量 | 485,265 | 723,603 | 197,296 | 342,120 | 170,578 | 1,542,679 | 3,461,541 |
| | | 價格 | 84,077 | 104,108 | 32,037 | 27,800 | 11,809 | 331,576 | 591,407 |
| | 支那 | 數量 | 140,491 | 32,771 | — | — | — | 222,631 | — |
| | | 價格 | 3,627 | 8,033 | — | — | — | 81,269 | — |
| 合計 | 日本 | 數量 | 1,077,598 | 845,183 | 261,692 | 559,551 | 221,004 | 1,824,318 | 4,789,346 |
| | | 價格 | 160,287 | 118,853 | 41,359 | 58,652 | 17,192 | 380,932 | 777,275 |
| | 支那 | 數量 | 230,445 | 94,959 | — | — | — | 421,015 | — |
| | | 價格 | 17,153 | 19,672 | — | — | — | 132,388 | — |
| 1884年 | | | 七月 | 八月 | 九月 | 十月 | 十一月 | 十二月 | 年間合計 |
| 當地消費 | 日本 | 數量 | 380,864 | 483,726 | 274,169 | 1,400,936 | 202,850 | 1,004,766 | 5,075,116 |
| | | 價格 | 55,200 | 69,760 | 42,039 | 201,063 | 29,810 | 112,824 | 696,564 |
| | 支那 | 數量 | 64,505 | 192,608 | 83,996 | 484,213 | 22,209 | 149,734 | 1,633,926 |
| | | 價格 | 12,561 | 46,278 | 18,642 | 98,488 | 5,999 | 26,806 | 340,064 |
| 他方輸送 | 日本 | 數量 | 2,404,943 | — | — | — | — | — | — |
| | | 價格 | 413,853 | 307,781 | 354,615 | 172,728 | 153,401 | 25,389 | 2,019,174 |
| | 支那 | 數量 | 275,975 | — | — | — | — | — | — |
| | | 價格 | 71,557 | 92,092 | 112,535 | 86,097 | 75,053 | 9,009 | 490,473 |
| 合計 | 日本 | 數量 | 2,785,807 | — | — | — | — | — | — |
| | | 價格 | 469,053 | 377,541 | 396,654 | 373,791 | 183,211 | 138,213 | 2,715,738 |
| | 支那 | 數量 | 340,480 | — | — | — | — | — | — |
| | | 價格 | 84,118 | 138,370 | 131,177 | 184,585 | 81,052 | 35,815 | 830,537 |

入総額は1,077,598ポンドとなり、価額は160,287ドルである。そのうち、半部以上の日本茶葉は当地で販売されていたが、その販売された部分の価額は総額の半数に満たなかった。中国緑茶は1月に輸入数量は日本茶葉の1/5で、その中の大部分は他の場所へ運送され、わずか89,954ポンドの中国緑茶がサンフランシスコで販売された。3月になると、当地で販売された中国緑茶は日本茶葉を越え、176,708ポンドに達し、日本茶葉の3倍に相当する。しかし、3月と5月以外、上半期において日本茶葉の販売額は中国を超過した。1884年第一四半期と第二四半期は両国の茶葉貿易にとって販売閑散期と言える。グラフ5に見られるように、下半期になると、両方の茶葉販売額が大幅に上昇し、ことに第四四半期の日本茶葉である。1884年、日本茶葉の

51) 「桑港之部」、『通商彙編』第6巻（外務省記録局）、203-204頁。



グラフ 5. 1884年サンフランシスコ茶葉市場における日中茶葉の消費状況

販売最低月は5月で、50,426ポンドのみ売られた。それに対して、販売額最高の月は10月で、1,400,936ポンドに達し、5月の3倍に相当する。中国緑茶は日本茶葉に及ばないが、そのゴールデンタイムも下半期であり、しかも販売最高月も10月で、484,213ポンドとなり、最低値の21倍に高まる。そのため、1884年、サンフランシスコ市場における中国緑茶の競争力は日本茶葉と比べ劣勢にあることが分かる。

『通商彙編』、第5巻「紐育之部」に掲載された「公報第四一號」（明治十七年十二月十七日調）では1884年におけるサンフランシスコ市場の不景気に関する原因に言及され⁵²⁾、茶葉の輸入額は市場の需要を超過するのは茶葉市場が不景気になった要因と思われ、また、サンフランシスコ市場における商店注文の減少が遠因となった。

表12は、『通商彙編』第6巻、「桑港之部」の「公報第八號」に記入されたデータに基づいて作成した1883年と1884年におけるサンフランシスコへ運送された日中茶葉の年間数量の対比表である。表10からみると、上半期において日中茶葉の輸入総額は1883年より減少したが、当地における年間消費量は増加傾向である。日本茶葉の消費量は1883年に比べ、485,115ポンド増加したが、価額は4,590ドルを減じた。その原因は、サンフランシスコ市場における日本茶葉の価格が下落したためであろう。表10に見られるように中国茶葉の販売数と価額は日本茶葉に及ばないが、1883年と比較すれば1884年の中国緑茶は上昇していた。

1884年に日中茶葉の価格変化については、『通商彙編』第6巻、「桑港之部」の「公報第八號」にそれに関する記録がある⁵³⁾。1884年に年日本茶葉の販売量が高まったが販売額は減少した。その原因は、中上等品の価格は低廉であり、しかもサンフランシスコ市場における茶葉消費層が中上等品の方への嗜好が強かったためと思われる。さらに、1884年に不正の日本茶葉は「不正茶

52) 「公報第四一號」、「桑港之部」、『通商彙編』第5巻（外務省記録局）、373頁。

53) 「公報第八號」、「桑港之部」、『通商彙編』第6巻（外務省記録局）、201頁。

表12. 1883年（明治16年）と1884年（明治17年）間日本支那より桑港へ輸入製茶表⁵⁴⁾

単位：封度（数量）／弗（価額）

| | | | 當地消費 | 他方輸送 | 總計 |
|-------|----|----|-----------|------------|------------|
| 1883年 | 日本 | 數量 | 4,590,001 | 12,604,447 | 17,194,448 |
| | | 價格 | 701,154 | 2,347,521 | 3,048,675 |
| | 支那 | 數量 | 1,373,531 | 3,367,532 | 4,741,063 |
| | | 價格 | 273,078 | 818,115 | 1,091,193 |
| 1884年 | 日本 | 數量 | 5,075,116 | — | — |
| | | 價格 | 696,564 | 2,019,174 | 2,715,738 |
| | 支那 | 數量 | 1,633,926 | — | — |
| | | 價格 | 340,064 | 490,473 | 830,537 |
| 差異 | 日本 | 數量 | +485,115 | — | — |
| | | 價格 | -4,590 | -328,347 | -332,937 |
| | 支那 | 數量 | +260,395 | — | — |
| | | 價格 | +66,986 | -327,642 | -260,656 |

禁止条例」の実施のため禁止された。中国緑茶は、清仏戦争で茶葉の輸入量に影響し、輸入量の増加幅が日本より小さかったが、その価格は前年より騰貴した。

4、1885年アメリカ茶葉市場における日中緑茶の商況

『通商彙編』の1885年のニューヨーク茶葉商況についての記録は1月から6月までのデータしかなく、後半の調査がないため、1885年におけるニューヨークの中日茶葉消費状況について、上半期のデータを整理して表13を作成した。

表13は、1885年（明治18年）のニューヨーク茶市場の状況を表す。

1883年と1884年の茶市場商況に比べ、1885年の上半期における日中緑茶は増加傾向にあった。「賣捌キタル茶」から見ると、1883年と1884年における中国緑茶の低迷していた販売状況にひきかえ、1885年上半期の中国緑茶の販売額は日本緑茶より多かった。

茶葉価格の面では、茶葉の第一等から第七等まで、中国緑茶の価格範囲は45仙～13仙となり、日本緑茶は38仙～15仙であり、日中緑茶は中国緑茶より低価した。

1883年と1884年の市場価格に比べ、1885年において中国緑茶の価格はほぼ穏やかにした。

上記の表13を全般的にみると、1885年のニューヨーク茶葉市場における日中緑茶の商況は1884年より優れている。価格は、中国緑茶と日本緑茶が下降したが、販売数量はある程度高まって価格差も減少した。1885年上半期のニューヨーク茶葉市場の変動は前年より小さくなった。

『通商彙編』第6巻の「紐育之部」には茶葉市場における日中茶葉の変動状況についての記録がある。『通商彙編』第6巻、「紐育之部」の「一月中茶市商況」により、1月に日本茶葉は「四

54) 「桑港之部」、『通商彙編』第6巻（外務省記録局）、202-203頁。

表13. 1885年（明治18年）半年間紐育港日支茶商況⁵⁵⁾

単位：仙（価額）

| 1885年 | | 一月 | | 二月 | | 三月 | |
|-------------|-----|--------|---------|--------|---------|---------|---------|
| | | 日本茶 | 支那緑茶 | 日本茶 | 支那緑茶 | 日本茶 | 支那緑茶 |
| 賣捌キタル茶 | | 8,200捆 | 15,700捆 | 6,700捆 | 31,900捆 | 10,700捆 | 34,500捆 |
| 価額 (平均値) | 第一等 | 38～35 | 40～36 | 38～35 | 45～36 | 38～35 | 45～36 |
| | 第二等 | 32～31 | 40～36 | 33～32 | 45～36 | 33～32 | 45～36 |
| | 第三等 | 28～27 | 32～28 | 30～28 | 32～28 | 30～28 | 32～28 |
| | 第四等 | 25～24 | 26～24 | 26～25 | 26～24 | 26～25 | 26～24 |
| | 第五等 | 22 | 22～21 | 23～22 | 22～21 | 23～22 | 22～21 |
| | 第六等 | 20 | 19～18 | 21～20 | 19～18 | 21～17 | 19～18 |
| | 第七等 | 18～16 | 16～14 | 18～17 | 16～14 | 18～17 | 16～15 |
| 1885年 | | 四月 | | 五月 | | 六月 | |
| | | 日本茶 | 支那緑茶 | 日本茶 | 支那緑茶 | 日本茶 | 支那緑茶 |
| 賣捌キタル茶 | | — | — | 8,300捆 | 17,500捆 | 7,929捆 | 13,504捆 |
| 価額 (平均値) | 第一等 | — | — | 36～33 | 45～35 | 37～34 | — |
| | 第二等 | — | — | 31～30 | 45～35 | 32～31 | — |
| | 第三等 | — | — | 28～26 | 30～27 | 27～26 | — |
| | 第四等 | — | — | 24～23 | 25～23 | 23～22 | — |
| | 第五等 | — | — | 21～20 | 20～19 | 21～20 | — |
| | 第六等 | — | — | 19～18 | 16～15 | 19～18 | — |
| | 第七等 | — | — | 17～16 | 14～13 | 17～15 | — |

等以下ノ品ハ需要多ク⁵⁶⁾」に原因で、その価格は前より1、2仙上昇した。2月に、「製茶ノ商況ハ活潑ニシテ就中支那緑茶ハ大ニ需要ヲ増加シ⁵⁷⁾」とあるように、中国緑茶の価格は騰貴した。また、3月の茶葉商況は、『通商彙編』第6巻、「紐育之部」の「三月紐育茶市商況」にあるように、3月のニューヨーク茶葉市場が活発で、日中茶葉の価格も上昇したが、清仏間に平和談判があったとする噂があり、日中茶葉の競争は再び低下した⁵⁸⁾。さらに5月に「需要ハ唯當坐必要丈ニ止マルガ上ニ、其高モ例ヨリ割合少ナキ方ナリ⁵⁹⁾」となったように、各種茶葉の価格は前月より下落した。

1885年のサンフランシスコ茶葉市場における日中茶葉の競争に関する『通商彙編』は見られないため、ここでは検討しない。

55) 「紐育之部」、『通商彙編』（外務省記録局）「価額」：第6巻：92-99頁。「賣捌キタル茶」：第6巻：91頁、93頁、95-97頁。

56) 「一月紐育茶市商況」、「紐育之部」、『通商彙編』第6巻（外務省記録局）、91頁。

57) 「二月紐育茶市商況」、「紐育之部」、『通商彙編』第6巻（外務省記録局）、93頁。

58) 「三月紐育茶市商況」、「紐育之部」、『通商彙編』第6巻（外務省記録局）、95頁。

59) 「五月紐育茶市商況」、「紐育之部」、『通商彙編』第6巻（外務省記録局）、96頁。

おわりに

1860年代から日本茶がアメリカ市場に進出し始めたため、それまでアメリカ市場を寡占していた中国茶葉に大きな衝撃を与えた。アメリカ茶葉市場における中国茶葉の主導的な地位が動揺し、それにともないアメリカ茶葉市場における日中茶葉貿易の競争が現出することになる。

1880年代になると、アメリカ茶葉市場における日本茶葉の割合は中国茶葉にやや劣ったが、その差は小さく、アメリカ茶葉市場のシェアは中国と日本とがそれぞれが分け合い、日本茶葉と中国茶葉の激烈なシェア争いが見られ、とりわけ1880年になると、日中緑茶のシェア争う時期が見られ、アメリカ茶葉市場における中国緑茶と日本緑茶とが競合したのである。

ニューヨークとサンフランシスコは、アメリカにおける茶葉の主要輸入地であると同時に巨大な茶葉市場であり、またアメリカ国内への搬出地でもあった。1880年代にアメリカ合衆国のこの両地に駐在していた日本領事が、当地の茶葉市場の貿易状況について領事報告に詳しく記録している。

これらの記録から、1881年のアメリカ茶葉市場における日中茶葉は市場の需要によって販売量と価格の変化が知られる。1880年にはその販売額が上昇した。1883年になると、茶葉市場は不景気となり、中国緑茶の価額が大幅に下落し販売額も減少した。その原因は茶葉品質の問題であった。1883年にアメリカは自国へ輸出された粗悪不正茶葉に対して国民の健康のために悪品質茶葉の輸入を禁止するという法案を可決した⁶⁰⁾。この法令によって中国緑茶とりわけ下等茶の輸入量と販売額は激減した。中国茶葉にひきかえ、日本茶葉は茶質問題の影響も受けたが、中国茶葉と比べ、1883年は日本緑茶の割合が最高の年であった。1883年、日中緑茶の輸入額の比率は3:1であり、日本緑茶の輸入量も割合も同年の中国緑茶より大いに高かった。1884年に、アメリカ政府は茶葉市場における投機商人を防止するため、個人的な販売を禁止した。その結果、日中茶葉両方とも茶葉の販売額が下降した。1885年に清仏戦争で中国緑茶の販売に影響を与えたが、日本茶葉は1884年の不景気な商況から少しずつ回復した。1880年代前期、アメリカ茶葉市場の市況の変動は市場の需要と供給に関係していた。茶葉の輸入量が市場の需要を超過すると、茶葉の価格が下落し、これに伴い販売全額は上昇した。しかしながら、1880年代中期になると、茶葉品質の問題、不正茶の禁止、戦争の影響及び茶商個人的な販売の禁止などによりアメリカ茶葉市場の商況の影響を受けた。

このように、日本領事報告の『通商彙編』によりアメリカにおける日中茶葉に状況、とりわけ日本茶葉とアメリカ市場、中国緑茶とアメリカ市場、日本茶葉と中国緑茶の関係など、1880年代前期におけるアメリカ茶葉市場の日中茶葉の商況及び競争動向が詳細に知られるのである。

60) 「明治十六年三月中紐育茶市景況」、「紐育之部」、『通商彙編』第2巻（外務省記録局）、35頁。

以上のように、1880年代以前において中国緑茶はアメリカ市場をほぼ寡占していたが、70年代末80年代初において日本茶葉がアメリカ市場に進出するに伴い、中国緑茶は徐々に下落した。そして、1881年から1885年にかけてアメリカ茶葉市場において中国緑茶と日本緑茶は、激的な販売競争を展開したのであった。

